

### 1 自己評価及び第三者評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894700059		
法人名	社会福祉法人 春来福祉会		
事業所名	グループホームいやしの館ゆむら2号館		
所在地	兵庫県美方郡新温泉町歌長字熊田600番地		
自己評価作成日	令和1年9月24日	評価結果市町村受理日	令和1年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp">http://www.wam.go.jp</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和1年10月13日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新温泉町の湯村温泉地区唯一の認知証対応型施設であり、地域の認知症ケアの拠点としての活動を重視している。具体的には、法人全体の取組として、特に認知症ケア実践者研修を受けた職員を中心とする地域貢献委員会のメンバーで、毎月1回の認知症&予防カフェ『のどか』を開催し、地域の方々と交流を深めている。また当事業所入居者で介護度が高くなり施設での生活が困難になった際には、併設特養の長期入居等の支援体制も整備している。その他、自然豊かな地域の特性を活かし、外出支援に力を入れている。一方、利用者・家族等に安心・安全に生活していただくため、職員には認知症の専門的な研修を積極的に受講させ、利用者中心の「パーソン・センタード・ケア」を実践し、利用者の思いを引き出せるように関わっている。法人の社会福祉複数事業運営の強みを活かし、併設事業間での情報共有、内外研修等で得た、日々変化する知識や情報を取り入れ業務に反映している。

#### 【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・湯村温泉地区唯一の認知証対応型施設であり、地域交流用の多目的室を設け、地域の認知症ケアの拠点として毎月1回の認知症&予防カフェ『のどか』を開催し、地域の方々と交流を深めている。・法人特性を活かし、法人の地域貢献委員会や研修に参加し地域に密着したケアの質向上に向け推進している。  
【工夫点】歌長地区すこやかクラブの方の協力で外食デイを設けている。恵まれた自然環境を活用し、日々の散歩や食事また特養開催の催い物に参加し、利用者の雰囲気や表情が穏やかさに繋がっている。・特養の両側に1号館、2号館を設置し、両施設合同の運営推進会議や地域交流の場として多目的室を有効活用する工夫し、認知症ケアの拠点としての活動の場としている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は朝礼時に唱和している。携帯カードを所持している。「その人らしく」生活してもらう事を理念に利用者様の生活歴を重視している。	地域密着型サービスの意義をも含む法人理念を朝礼時唱和し、又日々のケアで確認できるように各員所持し利用者が「そのひとらしく」生活してもらう様共有を図り、特に利用者個々生活歴を重視している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアやすこやかクラブとの交流等を図っている。	地域唯一のグループホームとして法人主催の地域貢献委員会に全職員各委員会に参加し、地域交流を目的とした多目的ホールを活用し、月1回の認知症&予防カフェを開催等地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知証カフェを開催し、予防体操やゲーム、勉強会等を通じて地域の人が相談出来る場を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1回定期的に地域住民、家族代表、行政代表に活動状況の報告をし、意見や話を参考に実践している。	歌長地域老人会、自治会代表、包括支援センター担当、家族参加し、2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、現状報告後意見交換を行いこれらからの意見を参考してケア向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で定期的に話し合い、協力関係を築いている。	町担当者と日頃から連絡をとり、運営推進会議参加の地域包括支援センター、老人会、自治会代表等よりのケアサービス実情情報提供を含め協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修等で身体拘束について学び取り組んでいる。玄関や窓等、通常の鍵は付いているが、夜間以外は施錠していない。	年2回法人研修計画主催の身体拘束研修に参加し、身体拘束禁止への理解を図っている。最近では言葉の拘束を行っていないかの取り組みをしている。玄関施錠は、日中フリーとしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待防止について研修を受け、職員同士日頃から注意している。	年2回法人研修計画主催の身体拘束と虐待防止研修に参加し、虐待防止への理解を図り、ケア時点で職員よりの相談意見交換し、相談件数増による発生防止に向け努めている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で研修を受けているが、今まで活用できる事案がなかった。	現在成年後見制度活用者はないが、年2回法人内研修参加や町、公民館による研修に参加し、必要時の活用に向け、日常ケアの中等で話し合いを行っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前から施設での生活や金銭的な事を伝え、契約時には重要事項説明書等で十分な説明を行っている。	契約等は、利用者・家族の関心事を伺い、重要事項説明書等で十分な説明を行い、特に施設浴槽が深い為、入浴基準による説明を行い理解・納得を図っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見や要望は随時聞く機会を設け、出来る限り答えられるように努めている。	訪問された時のケアプランの作成等意見を伺い又運営推進会議参加の機会を設けている。催し後の写真を見た際脚の腫れが気に入った発言より主治医に診察依頼等意見を反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から職員の意見や提案は聞く機会を設け、処遇会議等で話し合いをしている。	毎月のカンファレンスで管理者は、職員の意見、提案等聞く機会や処遇会議で、利用者に関わる事等よく話し合い必要な事は採用し反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれに担当を持ってもらい、責任ある仕事を意識付けている。就業時間を守り、時間外労働をしないよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を説教的に勧め、希望者は参加出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	保護路から他事業所と連絡を取り交流している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前面接を行い、課題の把握に努め、入居について理解を得られるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接の際には本人・家族同席の上話を聞き、都度話し合いながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接の際には、入居が適当かどうかの見極めや、今後の見通し等を見ながら話を進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者それぞれの現有能力に応じた役割を持ってもらい、出来る事はしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者の近況報告を行い、訪問時や電話連絡等、随時家族と関わりを持つようにしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話での自由な会話や、外泊・外出・訪問等の制限もなく、家族・本人の希望があればいつでもできるようにしている。	これまで本人が大切にしてきた地域との関わりを継続し本人を支えながらアプローチしている。秋祭りや年末年始、お盆など一人ひとりの生活習慣を尊重し家族、友人等に会いに行ったり、携帯電話で連絡を取るなどつながりを大事に支援してる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間や食堂で過ごしている時や、レクリエーション等を通じて、いつでもコミュニケーションがとれるよう配慮している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴を尊重し、ケアプラン作成時には本人・家族の意向を聞いてカンファレンスを行い、本人の思いに添えるように努めている。	本人にとってどのように暮らす事が最良なのかをご家族を交えて検討している。利用者の言葉や言葉にしづらい思いを、職員全員が一人ひとりの想いに関心をはらい、日々の暮らしの中で行動や表情など真意を汲みとり把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃から今までの生活について話を聞き、生活習慣や環境等を大事にするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から観察し記録をして、職員全員が情報共有し把握するように努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、それに基づいて計画作成者が立てたケアプランの実践と、毎月のモニタリングにより継続、変更等確認している。	介護計画は半年に1回見直し、毎月モニタリングを行い本人をよく知る関係者や家族等と話し合い、気づきや意見、要望を反映している。家族の意向やアイデアを基に今年度は、利用者の好きな花を選び鉢植えに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌記録により、此処のケース記録として、毎月のモニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば柔軟に対応するように努めている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩やドライブ等で地域に出向き、交流が図れるようにしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回定期受診に行っており、主治医に随時報告を行っている。	利用前の受診経過を把握し適切な医療が受けられるようにしている。看護師がいないので変化時への対応に不安がある。24時間主治医に相談できる。夜間の相談や急変時の指示、判断ができる体制が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がいないため、主治医と24時間連絡が取れる体制になっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医より紹介状と診療情報の提供と、入院時には施設での生活状況等の情報提供をしている。	医療機関に対しては、入院目的を早く達成してもらえるよう主治医が紹介状を作成する。入院によるダメージを極力防ぐために事業所から本人への支援方法に関する介護・看護継続記録を提供する。早期退院に向け連携室と密に情報交換し面会や話し合いを行い、退院支援に結び付けている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は特養への移動等、家族の意向を聞きながら、事前に話し合いをしている。	本人や家族の意向を踏まえ、事業所が対応し得るケアについて説明している。早期から話し合いの機会を持つ。事業所の浴室環境等での対応リスクを説明し同法人特養への移動等への対応策を提案している。安心し納得した最期を迎えられるように意思確認し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応等、施設内研修を受けている。また、その際の連絡網も整備している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行っている。災害対策については、現在法人で作成中である。備蓄についても、利用者・職員12名として、3日分を用意している。	年2回内1回は消防立会の火災訓練を実施している。災害対策に関し、法人全体で見直し中。備蓄は利用者・職員3日分を準備を補てん中。	昨今予想外の災害発生あり、夜間想定訓練等を含め法人全体見直し及び備蓄に関の早期確保と管理整備が望まれる。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に意識している。排泄の声掛けは他利用者に聞こえないようにしたり、男性利用者には立って排尿をしてズボンの前を濡らさないよう、座ってする事を勧めている。	年長者としての敬意を払い、馴れ合いの中でも本人に発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りを傷つけていたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、日常的に確認し事業所全体で言葉がけ等配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「こうしましょうか?」ではなく、「どちらにしましょう?」と言うような、選択する声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴等、本人の拒否があれば無理強いしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服を着る利用者には、職員が着替えを用意する事がある。2ヶ月に一度移動理・美容車で散髪やカットをしている。家族と一緒に行きつけの美容院に行っている利用者もいる。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物は代替え食を用意したり、固い物は刻んだりしている。米研ぎや食材を切ってもらったり、盛りつけや配膳をしてもらっている。	食事を楽しむために旬の食材を採り入れ食欲を高め、食への関心が高まるよう工夫している。月1回のテーブルクッキングでは利用者と一緒にホットプレート等を活用してお好み焼きやホットケーキなど食事を一つの大切な活動の一つとして。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を記録している。毎月の体重測定により、栄養状態を把握し、必要に応じて食事量の記録もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後、重曹水で口をゆすいでもらっている。月2回、歯科衛生士による口腔ケアを受け、寝る前には義歯洗浄・歯磨き・嗽をし、洗浄液に浸けてもらっている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意を大切にするため、定時のトイレ誘導は行わない。個々の排泄パターンを把握し、その日の状態により対応している。	トイレでの排泄を可能にするために、「行きたい時にトイレに行くことができる。」よう、本人の尿意を失わないケアを心がけている。ひとり一人のサインを全職員が把握し合いどんな時間帯にどのような対応をすべきか常に見直し支援してる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量確保のため、水分摂取量の記録と、毎日の体操等で予防を心がけている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人が入りたくない時は無理強いをせず、別の曜日に変更している。	一人ひとりのその日の希望に合わせて入浴をいただく。入浴を拒む方には、言葉がけや対応を工夫しながら個々に添った支援をしている。新しい建物で浴室もきれいな作りになっているが浴槽縁が大理石造りで浴槽が深いため湯船につかる事への課題がある。	恐怖心から大理石製浴槽につかれないう方もいる現状から事業所全体として快適な入浴環境への更なる計画的な改善に向けた実施が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の臥床を勧める利用者や、自身で休んでいる利用者もいて、夜間の良眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認のため、薬を手に出し服薬するところまで見ている。薬に変更・追加等あれば、申し送りで職員に周知するよう引き継いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のモップ掛けを日課にしている利用者や、独自の宗教のお勤めで、外に出ていつも同じ方角を向いて拝む利用者等の見守り、時代劇や歌番組等を録画し、好きな時間に見れるようにしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人内での行事で隣の建物に出かけたり、外食やドライブにすこやかクラブの皆様と一緒に往ったりしている。	近隣への散歩や畑のあるテラスでの気分転換など日々行われている。日常のお買い物には職員と1対1で行きます、法人内行事に参加するため隣接する特養へ出かけたり、年1回外食ツアーでは地域のボランティアすこやかクラブ3名の方と車で出かけ協力を得ながら楽しみの一つとなっている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金は所持してもらわないようにしているが、家族の希望で小銭を所持している利用者がある。必要であればいつでも預かり金を渡す用意はしている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している利用者がある。本人の希望があれば事務室の電話を利用出来る。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しに強い日はレースのカーテンで日よけをしたり、居間から食堂の窓を開けて風を通したりしている。	共用空間は、いずれもゆとりのある広さを確保し、利用者が不快や混乱を招かない配慮がなされ、生活感、季節感を感じる飾りつけ等行い、読書コーナーを設けたり居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが好きな所で過ごしている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の自由にしてもらっている。テレビを置いている利用者や、足のマッサージ機を置いている利用者がある。	居室は、窓外に自然を感じる景観であり、想いのある品等持込みを本人。家族の自由としている。思い出の写真、テレビ、足マッサージ機等使い慣れたものを活かし、本人が居心地良く過ごせるような居場所の工夫をしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで段差がほとんどない。各居室には表札が掛けてあり、トイレ・浴室には絵と文字で表記している。		